

研究科概要

名称	取得できる学位	入学定員
国際情報研究科 Graduate School of Global Informatics 国際情報専攻 Global Informatics Course	修士(国際情報) Master of Global Informatics	25名

学費 (2024年度入学生 参考金額)

初年度納入金額合計
1,111,000円

入学金 240,000円 在学科 691,000円
実験実習料 35,000円 施設設備費 145,000円

入試情報(予定)

一般入学試験	社会人特別入学試験	特別選考入学試験
対象 大学を卒業した者など (卒業見込みを含む)	対象 3年以上の実務経験を有し、 大学卒業した者など	対象 本学の学部卒業見込み者で、 一定の基準を満たしている者
募集人員 5名	募集人員 15名 (指定機関推薦入学試験含む)	募集人員 5名
選考方法 筆答試験 【専門・英語(試験の代わりに英語能力証明書提出)】 口述試験	選考方法 筆答試験【小論文】 口述試験	選考方法 書類審査、口述試験

※「指定機関推薦入学試験」は書類審査と口述試験となります。

Guide Book

大学院 国際情報研究科

Graduate School of Global Informatics



CHUO UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
GLOBAL INFORMATICS

中央大学国際情報学部事務室

TEL.03-3513-0314 〒162-8478 東京都新宿区市ケ谷町1-18
mail:itl-staff-grp@g.chuo-u.ac.jp
https://www.chuo-u.ac.jp/academics/graduateschool/itl/



中央大学市ケ谷町キャンパス

- 東京メトロ有楽町線・南北線「市ケ谷駅」(6番出口)下車 正面
- JR中央・総武線「市ケ谷駅」下車 徒歩約5分
- 都営地下鉄新宿線「市ケ谷駅」(A1出口)下車 徒歩約5分

行動する知性。

中央大学

Information Technology & Law で

唯一無二の 学びを目指す

AI・IoT、ビッグデータに代表される技術革新により、情報化とグローバル化が急激に進展し、加速度的に社会が変化していく中で、サイバー空間と現実世界とが密接に接合する「サイバー・フィジカル」な社会__Society5.0__に内在する複雑な社会問題に対応できる人材が求められています。日本国内においては、デジタル庁の創設は記憶に新しく、民間においてもDXの波が押し寄せています。情報システムがインフラ化し、高度な運用が求められる社会では、それを制御する法体系が不可欠です。しかし、世界のどの国においても、進展する情報技術を満足な法体系で担保するに至っているとは言えません。そのような現状において、情報学と法学の統合こそが情報社会が抱える諸課題を解決に導くと考え、中央大学は国際情報研究科を開設しました。



国際情報研究科のWEBサイトはこちら
 随時、情報を更新してまいります。
<https://www.chuo-u.ac.jp/academics/graduateschool/iti/>



情報学と法学を統合し 社会のグランドデザインを主導する人材を養成

官民問わず、デジタル化の推進が強力に叫ばれる今、

自動運転車や
人事採用システム等の
AIを搭載した製品における
倫理的課題

膨大な顧客データの
GDPRに準拠した
管理

クラウドコンピューティングや
オープンAPIによる
イノベーションの創出 等

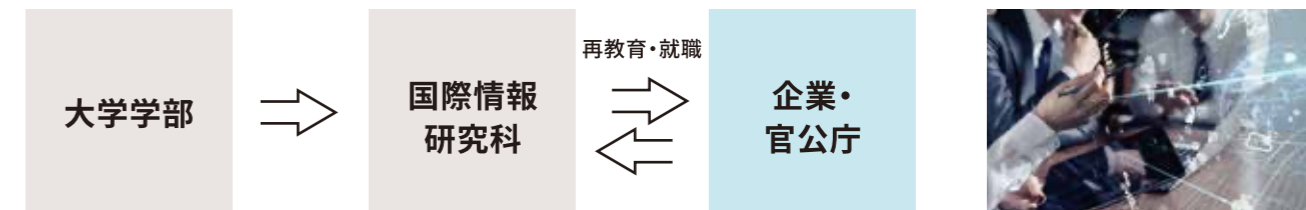
従前の知識や考え方、単一分野の知識では解決し得ない課題が私たちに突き付けられています。国際情報研究科では、情報及び情報に関する法律・規範に関する理論とサイバーフィジカル社会(CPS)における諸現象に精通し、複雑さを極める現代社会に内在する諸問題に対する新しい解決アプローチを、情報学と法学の知識をもとに創造できる人材、すなわち、「情報学と法学を統合し、社会のグランドデザインを主導する人材」を養成します。

教育・研究の特色

- 01** 研究指導は主査と副査が担当
研究の学際性を担保します
- 02** キャンパスはアクセス抜群の市ヶ谷
オンライン授業も活用します

中心的な専門分野と学びのキーワード	
研究分野	キーワード
AI・データサイエンス	STEM/AI/IoT/ビッグデータ/HCI/UI/データマイニング/並列・分散システム/通信プロトコル/Webアプリケーション/法令工学/クラウドコンピューティング 等
情報法	ELSI/プライバシー・個人情報/GDPR/知的財産/消費者保護/契約法/不法行為法/CPSの製造物責任/フェイクニュース/サイバー犯罪/ロボット法/Legal Tech 等
社会デザイン・社会実装	DX/サイバーセキュリティ/仮想空間/情報心理学/サブカルチャー/メタバース/デジタルイノベーション/ブロックチェーン/デジタルジャーナリズム 等

入学する学生と修了生の進路イメージ



学部教育において、既に「情報」と「法律」の素養を身につけた学生

普段の業務において「情報」もしくは「法律」に関する課題を抱える社会人学生



1年次

2年次

専門共通科目	ベースライン	<ul style="list-style-type: none"> ●研究の計画と遂行 ●ELSI研究法I ●ELSI研究法II 情報基盤研究法 情報法研究法
	グローバル・コミュニケーション	コミュニケーション特論(1) 比較文明学特論 コミュニケーション特論(2) 哲学特論
専門分野科目	AI・データサイエンス	HCI特論 データマイニングとAI特論 国際情報学実践研究(1) 並列・分散システム特論 法律人工知能特論
	社会デザイン・社会実装	インターネットの技術と文化特論 情報セキュリティ特論 デジタルジャーナリズム特論 情報イノベーション学特論 情報心理学特論 国際情報学実践研究(2)
	情報法	情報公法特論 情報民事法特論 AI・ロボット情報法特論 国際情報学実践研究(3) 情報刑事法特論 プライバシー情報法特論 ネットワーク情報法特論
研究指導科目		<ul style="list-style-type: none"> ●国際情報学研究指導I ●国際情報学研究指導II
		<ul style="list-style-type: none"> ●国際情報学研究指導III ●国際情報学研究指導IV

●は必修科目 各科目群の上段が前期、下段が後期開講予定 1科目2単位

修士論文で修了 <30単位の修得> 8単位 以上修得	特定課題論文で修了 <40単位の修得> 8単位 以上修得 4単位 以上修得
14単位 以上修得	20単位 以上修得
8単位 修得	8単位 修得



専門共通科目を通じて情報学と法学の知識基盤を構築し、専門分野科目と「国際情報学研究指導Ⅰ・Ⅱ」により、自身の研究テーマを選択し、関連する専門知識を修得する。



専門分野科目を履修することで得られた高度な学際性と専門性を前提に「国際情報学研究指導Ⅲ・Ⅳ」において、研究テーマの選択方法、研究調査方法などを、それぞれ専門性の異なる指導教員、副指導教員による複数指導により修得。

修士論文の作成を通じて、情報学と法学の知的統合を達成。

修士論文を執筆して修了

30単位以上の修得
+ 修士論文

特定課題論文の作成を通じて、情報学と法学の知的統合を達成。

特定課題論文を執筆して修了

40単位以上の修得
+ 特定課題論文

授業は平日夜間と土曜日に開講!
オンライン授業システムも活用して働きながら修了可能。

授業時間 平日(月~金) 6限 18:50~ 土曜日 1限 9:00~

オンライン授業もフレキシブルに活用。
土曜日の研究指導は市ヶ谷田町キャンパスでの対面指導を予定。



研究指導・授業担当教員

AI・データサイエンス分野

教授 飯尾 淳



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- 人間と情報システムのインタラクション
- 主な担当科目
- HCI特論

AI・データサイエンス分野

教授 角田 篤泰



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- 法情報学・リーガルテック
 - 人工知能
- 主な担当科目
- 法律人工知能特論

AI・データサイエンス分野

准教授 小花 聖輝



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- Webアプリケーション
 - 並列・分散システム
- 主な担当科目
- 並列・分散システム特論

AI・データサイエンス分野

准教授 吉田 雅裕



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- IoT
 - AI
 - データサイエンス
- 主な担当科目
- データマイニングとAI特論

情報法分野

教授 石井 夏生利



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- プライバシー・個人情報保護法
- 主な担当科目
- プライバシー情報法特論

情報法分野

教授 小向 太郎



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- 情報法
 - 情報通信法
- 主な担当科目
- ネットワーク情報法特論

情報法分野

教授 平野 晋



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- AI・ロボット法
 - 製造物責任法
- 主な担当科目
- AI・ロボット情報法特論

社会デザイン・社会実装分野

教授 岡嶋 裕史



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- TCP/IP系プロトコル
- 主な担当科目
- インターネットの技術と文化特論

社会デザイン・社会実装分野

教授 須藤 修



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- AIガバナンス
 - ICTイノベーション戦略
- 主な担当科目
- 情報イノベーション学特論

社会デザイン・社会実装分野

教授 松崎 和賢



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- サイバーセキュリティ
- 主な担当科目
- 情報セキュリティ特論

社会デザイン・社会実装分野

教授 松野 良一



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- ジャーナリズム
- 主な担当科目
- デジタルジャーナリズム特論

社会デザイン・社会実装分野

教授 村田 雅之



研究業績はこちら

- 研究指導のテーマ
- 情報心理学
- 主な担当科目
- 情報心理学特論

授業担当教員

情報法分野

教授 岩隈 道洋



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- 情報公法特論

情報法分野

准教授 中島 美香



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- 情報民事法特論

情報法分野

准教授 中村 真利子



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- 情報刑事法特論

グローバル・コミュニケーション

教授 斎藤 裕紀恵



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- コミュニケーション特論(2)

グローバル・コミュニケーション

教授 橋本 健広



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- コミュニケーション特論(1)

グローバル・コミュニケーション

教授 保坂 俊司



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- 比較文明学特論



グローバル・コミュニケーション

准教授 矢島 壮平



研究業績はこちら

- 主な担当科目
- 哲学特論

研究指導後に得られる能力		
分野	教員名	指導後のイメージ
AI・データサイエンス	飯尾 淳	システムやサービスの使い勝手に関する良し悪しを評価・分析できるようになる。 SNSなどインターネット上のユーザーの行動を分析できるようになる。
	角田 篤泰	LegalTechの技術基盤、背景、および課題について理解できるようになる。 DXやAI化に関わるルールベースドなレジ管理の基本技術を活用できるようになる。 システム科学に基づくシステム開発の上流工程の設計ができるようになる。
	小花 聖輝	様々な技術分野をウェブアプリケーションに応用できるようになる。 ウェブアプリケーションのバックエンドで様々な手法を検討できるようになる。 文書分類の手法を用いて様々なものを分類できるようになる。
	吉田 雅裕	統計やAIを用いた実践的なデータサイエンスを行うことができるようになる。 5GやIoTなどの技術を理解しプログラミングすることができるようになる。 自動運転車の仕組みを理解しプログラミングすることができるようになる。 Webサイトの仕組みを理解しプログラミングすることができるようになる。
情報法	石井 夏生利	日米欧の制度比較を通じて、日本の個人情報保護法制が抱える課題を大域的に理解できるようになる。 データの取扱いを巡る新たな問題について、プライバシー・個人情報保護の観点から法的にアプローチできるようになる。
	小向 太郎	情報技術を活用した新たなサービスやビジネスについて、どのような法制的課題を起す可能性があるのか、情報法全般に関する基礎的な知識を踏まえて、多面的に評価できるようになる。 デジタル化、ネットワーク利用の進展によって生じる社会の諸問題について、主要国の制度がどのように対応しようとしているのか、それぞれの特徴と課題を理解できるようになる。
社会デザイン・社会実装	平野 晋	日米の法律、学説、裁判例等を参考にしながら、誤作動した自動運転車が製造物責任を負うか否かを理解できるようになる。 AIを搭載した製造物が設計上の欠陥であると認定される際の基準を、日米の法理論から理解できるようになる。 ハイリスクAIオペレータに対するEUの民事賠償責任レジーム(厳格責任化)立法提案を理解できるようになる。
	岡嶋 裕史	ある情報システムの実装においてどのようなアーキテクチャを採用すべきか、流行や言説に惑わされず論理的に最適解を導くことができる。 Web3やメタバースのような新規概念、新規実装が現れたときに、どこをマネタイズのポイントとするか適切に判断することができる。
	須藤 修	イノベーション計画を立案し、パフォーマンス評価指標を作成できるようになる。 DXマネジメントができるようになる。 AIライフサイクル・マネジメントができるようになる。 データサイエンスを駆使できるようになる。
	松崎 和賢	アジャイル・ガバナンスにおけるセキュリティのリスク分析について国際標準等に照らして理解できるようになる。 サイバーフィジカルシステムにおけるセキュリティ検証や対策について実践しながら理解できるようになる。
社会実装	松野 良一	メディア企業で生じる不祥事、やらせ、誤報、虚報の原因・メカニズムの分析と再発防止策の立案および論文化。 日本および海外におけるフェイクニュースの収集・分析と論文化。 地域における歴史、戦跡、観光資源の発掘および情報発信の方法習得と論文化。 ソーシャルメディア(SNS)が引き起こす様々な現象と人間行動の変容に関する分析と論文化。
	村田 雅之	「情報」「心理」「メディア」などの学際的な視点から、社会現象を串刺し的に読み解けるようになる。 よき「読み手」として、メディア情報を多面的に捉えることができるようになる。